

「保育プロセスふり返しシート（仮称）」を用いた 研修における実践知の共有

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター
淀川裕美

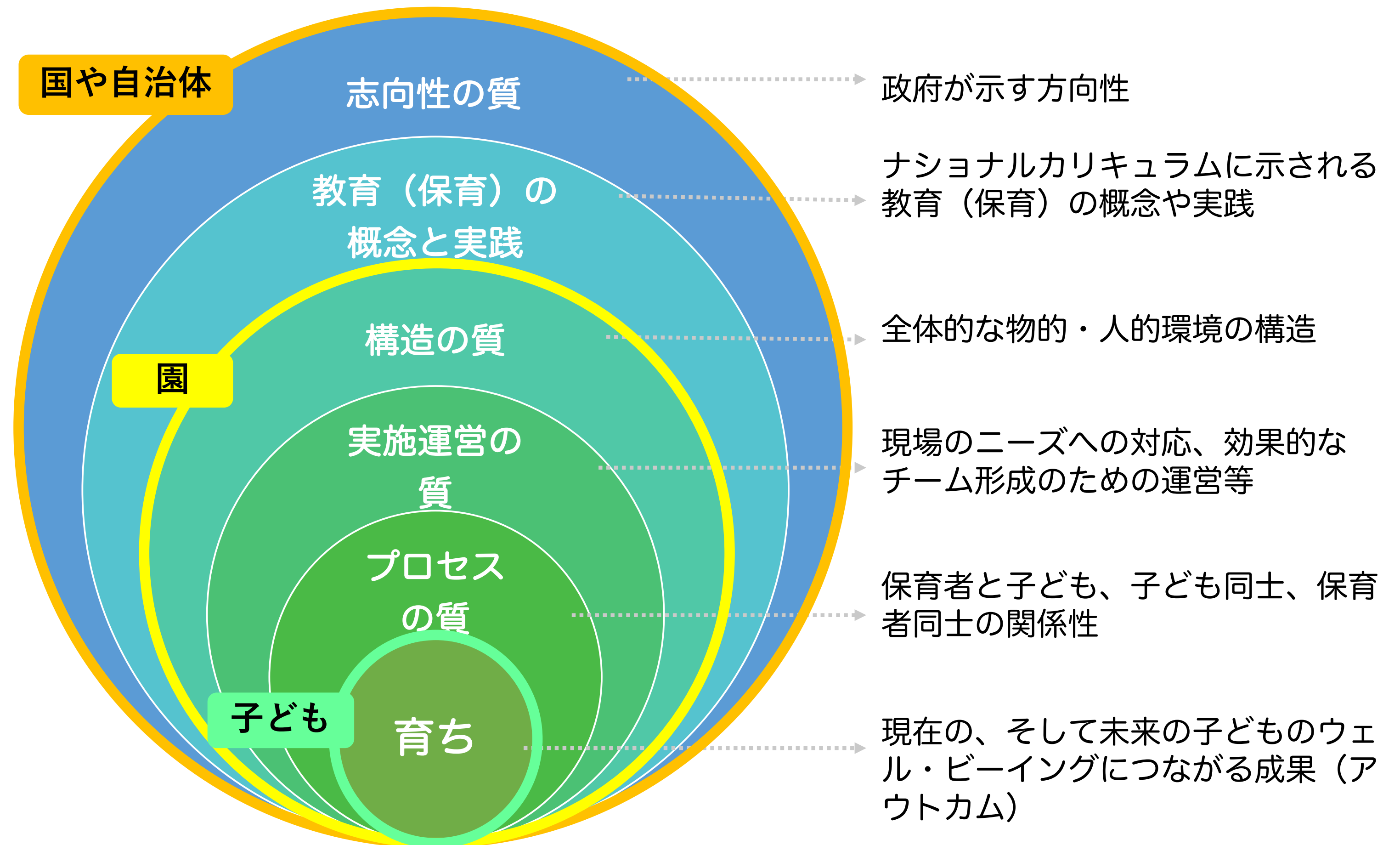
本日の内容

- 「保育プロセスふり返しシート（仮称）」とは
- 開発の背景・理念
- 開発の手順
- まとめと今後の展望

「保育プロセスふり返しシート（仮称）」とは

Cedepで開発中の、保育の質のうち「プロセスの質」と呼ばれる
保育者と子どものかかわり、子ども同士のかかわり、それを支える環境構成に
焦点をあて、保育のふり返しを支援するツール

- 子どもの経験から日々の環境構成やかかわりを振り返る：
子どもの**安心**
子どもの**夢中**
の2つの観点
(Laevers et al, 2005)
- 「ふり返しツール（仮称）」の開発とそれを一部に活用した園内・園外研修の方法を探究



開発の背景・理念

モニタリング（状態を把握するための観察・評価）の重視

OECD ECEC(Early Childhood Education and Care) Network



報告書『人生の始まりこそ力強く』（SS2邦訳より）

『Starting Strong: Early Childhood Education and Care』(2001)

『Starting Strong II: Early Childhood Education and Care 』(2006)

『Starting Strong III: A Quality Toolbox for Early Childhood Education and Care 』(2012)

『Starting Strong IV: Monitoring Quality in Early Childhood Education and Care 』(2016)

『Starting Strong 2017: Key Indicators on Early Childhood Education and Care』(2017)

『Starting Strong V: Transition from Early Childhood Education and Care to Primary Education』 **new!**

保育の質に関連する

- ・ 先行研究の整理
- ・ 各国の動向（実践、政策）
- ・ 今後の課題の展望

60

EU “Monitoring the quality of early childhood education and care” (2018)

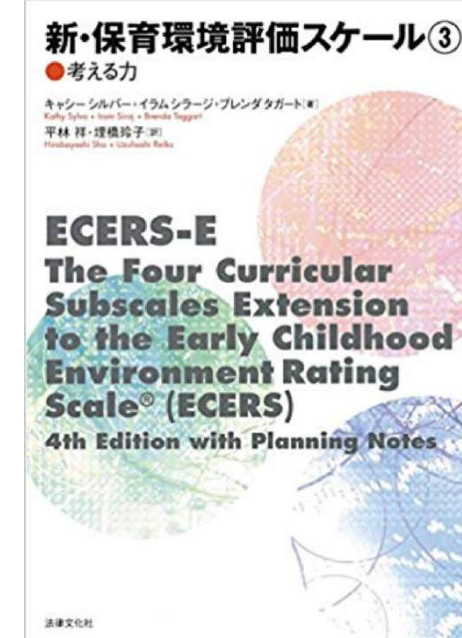
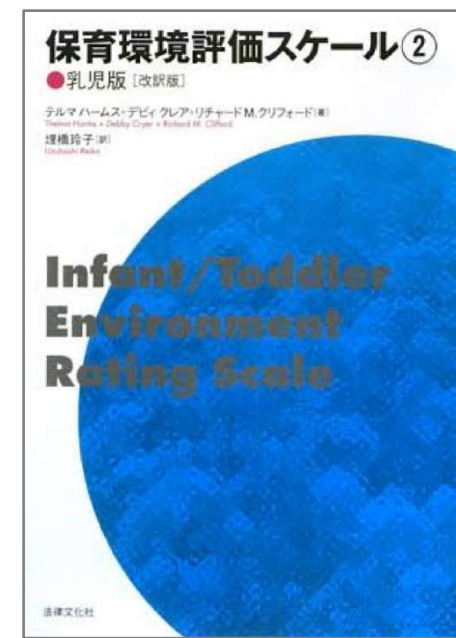
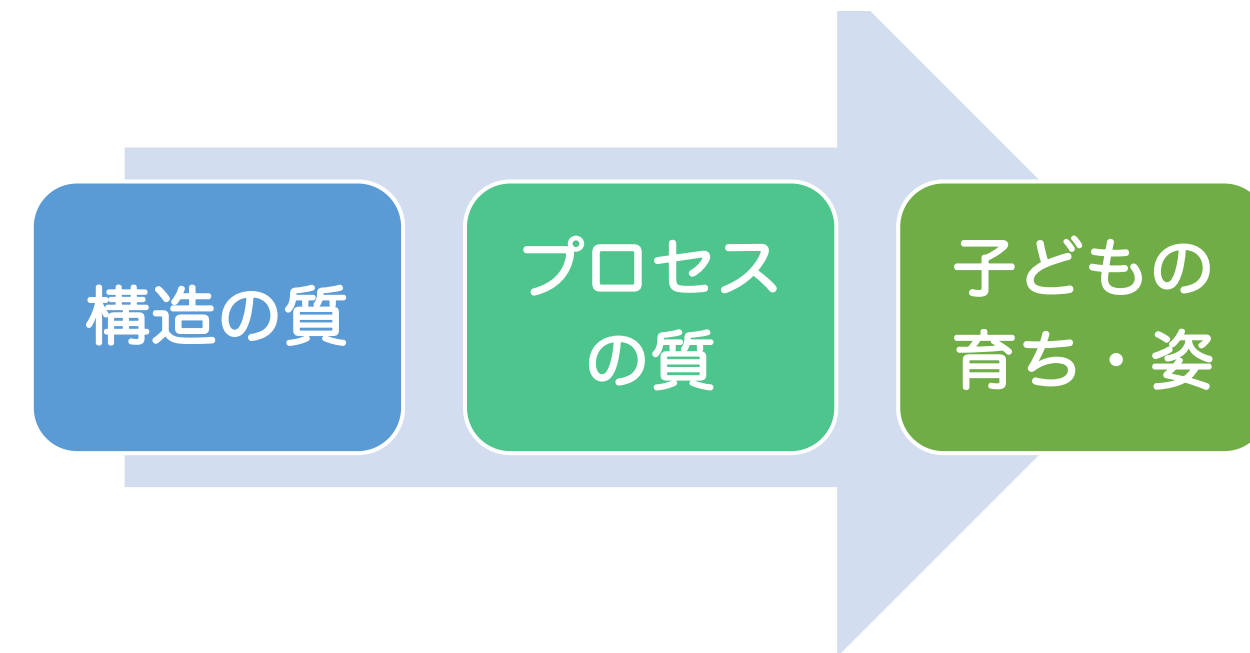
The Quality Framework for ECEC



- 日本でも
- ・ 「幼稚園における学校評価ガイドライン」（文部科学省, 2008年施行・2011年改訂）
 - ・ 「保育所における自己評価ガイドライン」（厚生労働省, 2009年施行）

・ 保育の質評価スケール（例） —客観的指標・共通言語として

日本語に翻訳されているものの一例



・ 評価は4段階で行う
(不適切・最低限・よい・とてもよい)

・ 3時間程度の観察と補足のためのインタビュー

ITERS/ECERS, CLASS, SICS, ASOS, CIS, DRDP, SSTEWS, MOVERSなどのほか 日本も含めて保育の質評価ツール（安梅先生グループ、金田先生グループ、秋田先生縦断科研グループなど）が開発されてきた。

- ・ 外国の尺度…文化的汎用性？
- ・ 日本の尺度…プロセスの質をあらゆる観点から検討しているもの？

「日本の保育文化になじむ保育の質評価スケールを」

- ・当初は、保育プロセスの質に焦点をあて、保育者と子ども・子ども同士のかかわりと、それを支える環境構成を捉えるための幅広い視点からのスケール作成を企図。

- 大きく8の柱を作成し、ひとつの柱に対し複数の視点を設け、それぞれレベル1（芽生え）、レベル2（実行）、レベル3（熟達）の3段階を想定して項目を作成。

※ITERS/ECERS, SSTEWS, シンガポールの SPARKなどを参照。

[illegible]

上位カテゴリー:2. 子どもが安心して過ごせる環境構成・かかわり 《幼児》

下位カテゴリー:安心感・基本的信頼感を育む環境、かかわり

評定の視点(作成中)

キーワード:安心、くつろぎ、受容・共感・傾聴、個々の思いや考えの尊重、敏感性感受性など。基本的には、子どもとの一対一あるいは一体数人の関係における安心

	環境構成		
視点	視点1: くつろげる雰囲気・場所・もの	視点2: 静かな遊びと動きのある遊び	視点3: 個別性に配慮した 個々の生興味関心 調整、一人ひとり
内容	適度に静かで、安心し、リラックスして過ごせる物的環境 一人ひとりが受け入れられていると感じ、くつろげる雰囲気	静的・動的遊びの場所が互いを妨げず、集中できる環境	
レベル1	- 子どもが不安そうな時、安らぎを求めている時に、よりどころとできる先生が少なくとも一人はいる - 登園時に、子どもたちはあたたかく受け入れられ、安心して園やクラスに入れる雰囲気である - 昼食時に、子どもたちや保育者の声が騒がしくなく、落ち着いた雰囲気である - 午睡時に、子どもたちを寝かせるために、叱責したり、威圧したりしていない - 保育室の中は、適度な温度と明るさで、自然な光や風が採り入れられている - 保育室が家庭的で、くつろげる雰囲気である	保育室には、子どもたちが互いの妨げとならずに、複数の異なる遊びができる広さがある	- 保育計画(週計画)を作っている - 食事や睡眠の(リズム)を
レベル2	- 子どもが不安そうな時、安らぎを求めている時に、よりどころとできる先生が複数名いる - 子どもが不安そうな時、安らぎを求めている時に、よりどころとなる(あるいは使い慣れた)おもちゃや場所がある - 登園時に、子ども一人ひとりが個別に受け入れられ、くつろいで過ごせる雰囲気である - 昼食時に、子どもたちの体調や食欲、食事のペースが尊重され、落ち着いて食べられる雰囲気である - 午睡時に、子どもたちの体調や眠気の有無が尊重され、安心して	- 保育室には、異なる遊びができるコーナーが複数ある - 保育室には、子どもたちが互いの妨げとならずに、静かな遊びと動きのある遊びを分けてできるだけだけの広さがある - 静かな遊びと動きのある遊びとが、互いに妨げにならないように配置されている	- 保育計画(週計画)を柔軟に作るよう柔軟に作っている - 保育計画(週計画)をまとめて作っている - 食事や睡眠の(リズム)を調整している



一方で、保育実践のふり返りにあたっては、**主観的評価、ナラティブ**を重視する考え方も。
実践者との検討会においても、様々な背景、地域の特徴、多様な価値観・規範がある現状をふまえ、保育プロセスの質に関して、3段階を一律に決めることの難しさ、現場での使いにくさなどのフィードバック。
日本では、アセスメント文化が定着していないことの現れ？

「質」のディスコースと「意味形成」のディスコース

- **質の概念** 「質や卓越性の評価においては、客観的で標準化された手順で問題解決をする一方、自らが内包する倫理的次元については考慮しない。価値に対する主観的な判断が存在しない」 (Dahlberg et al, 1999; Dahlberg and Moss, 2005) 「保育を系統的・網羅的に検証できる一方、社会や文化による様々な影響を十分に考慮に入れられないという限界」 (Vanderbroeck & Peters, 2014)
- **意味形成の概念** 「規定の標準的枠組みにどのくらい一致するかを見るのではなく、文脈に応じた判断を行うことが求められる」 「多様・曖昧・主観的・文脈依存的である保育の営みを捉える上で有効」 (Dahlberg et al. 1999; Dahlberg and Moss, 2005)

Discourse of quality 質のディスコース	Discourse of meaning making 意味形成のディスコース
確実性や順序を提供する、決定的で普遍的な基準 客観的で標準化された手順 終結、標準化、客観性 既存の基準への一致を目指す 既定の標準的枠組みにどのくらい 一致するかを見る 数で表すというように一定の結論を求める 	複雑さ、価値観、多様性、主観、不確実性、複数の見方 価値に対する主観的な判断 暫定的、複数性、主観性 省察、解釈、話し合い、議論 最終的な（しかし暫定的な）合意 仕事の可視化が重要 

相互補完的に：それぞれの限界をふまえて

- ・ **質の評価**を行うということ

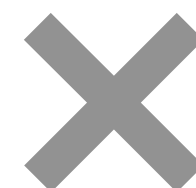
一方で、例えば、ITERS-R Training Course (NC: 2018/7/23-27) でのトレーナーの言葉：

「assessmentを行う時は、あなたが保育を見てどう思うか、あなたの文化的背景からどう考えるかは不要。あくまでも、ITERS-Rに書かれている内容、補足や例を基準にして、もしその中で判断に迷うものがあれば、"All About ITERS-R"を読んで、判断すること。あなたの主観的な判断は入れないで」一観察された保育の背後にあるねらい、その時の保育者の思い、子どもの思いなどは捨象。

- ・ **意味形成**を行うということ

open endedの話し合いの場合、話し合いの内容に偏りが生じやすい、考え方・語り合い方が固定化しやすい、管理職や経験年数の長い保育者の意見が権威を持ちやすい、平等に意見を交流して対話するということが難しい場合が多い。

自分たちで保育を**客観的に**捉える



自分たちで保育を**主観的に**意味付ける

2017年8月

The image displays three panels of Japanese text, each featuring a large black number (1, 2, 3) and the word "視点" (Shiten) in a large, bold font. The text is from a book, likely discussing social or political issues.

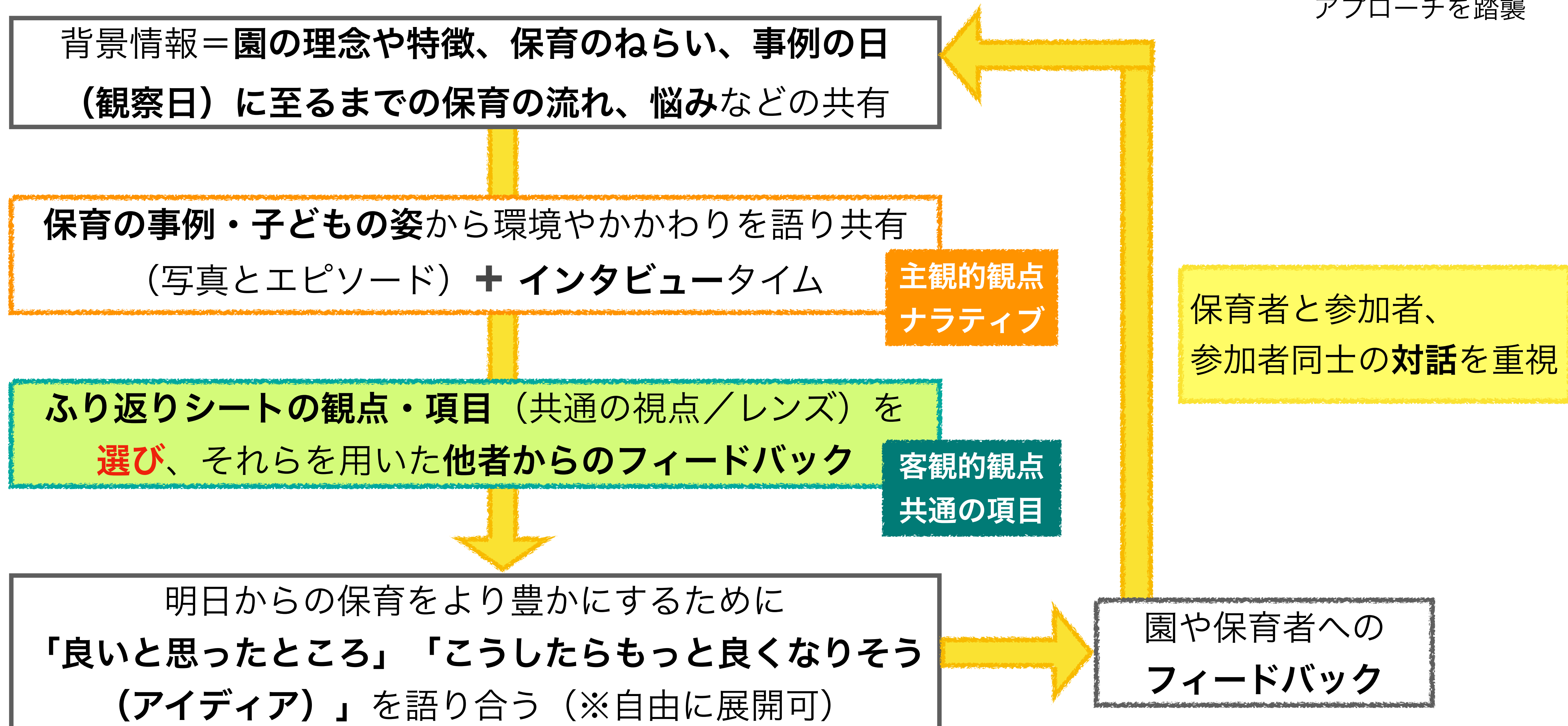
- Panel 1 (Left):** The text discusses the relationship between the state and the people, mentioning "国家" (Kokka) and "国民" (Kokumin). The large number "1" is on the left, and "視点" is in the center.
- Panel 2 (Middle):** The text discusses the relationship between the state and the people, mentioning "国家" (Kokka) and "国民" (Kokumin). The large number "2" is on the left, and "視点" is in the center.
- Panel 3 (Right):** The text discusses the relationship between the state and the people, mentioning "国家" (Kokka) and "国民" (Kokumin). The large number "3" is on the left, and "視点" is in the center.



- ・主に自己評価・相互評価を想定
- ・一つの項目について「◎よく取り組んでいる」「○それなりに取り組んでいる」で評価
- ・チェックリストではなく、その事例を語るための視点
- ・保育を振り返るサイクルの中の一環

《主観的・ナラティブによる評価》を支える《客観的・共通の項目による評価》の活用 としての「保育プロセスふり返しシート（仮称）」

※日本版SICSの
アプローチを踏襲



START

背景情報の共有

1.子どもの遊ぶ姿・様子を通して、日頃の保育の環境構成・かかわりを記録し共有する



連続開催の園内研修なら次回までに→

主観的観点
ナラティブ

テーマ（例：安心して過ごせるように／好奇心をくすぐる保育）

クラス名

	8月	～	9月	～	10月
環境構成	 コメント		 写真 コメント		 写真 コメント
	 コメント		 写真 コメント		 写真 コメント
かかわり	 写真 コメント		 写真 コメント		 写真 コメント
	 写真 コメント		 写真 コメント		 写真 コメント
週案や月案					
保育の記録					

2.ふり返しシート（＝共通の視点・レンズ）を用いて、環境構成とかかわりについてフィードバック・ふり返し

安心感・信頼感を育む環境構成	
◎:よく取り組んでいる ○:それなりに取り組んでいる	
環境構成	
1.くつろげる雰囲気・場所・もの 適度に静かで、安心してリラックスして過ごせる物的環境 一人ひとりが受け入れられていると感じ、くつろげる雰囲気	◎/○
あ 子どもが不安そうなおもちゃ、安らぎを求めている時に、よりどころとなる先生が複数いる	
い 子どもが不安そうなおもちゃ、安らぎを求めている時に、よりどころとなる（あるいは使い慣れた）おもちゃや場所がある	
う 遊びの空間に、肌触りがよく、子どもたちが身体的に心地よさを感じられるものがある（例：マット、子ども用ソファ）	
え 他者からの視線が届きにくい、子どもが一人になれる空間がある（例：棚の後ろ、段ボールの家のなか、カーテンの向こう）	
お 登園時に、子どもたちはあたたかく受け入れられ、安心して園やクラスに入る雰囲気である	
か 昼食時に、子どもたちや保育者の声が騒がしくなく、落ち着いた雰囲気である	
き 昼食時に、子どもたちの体調や食欲、食事のペースが尊重され、落ち着いて食べられる雰囲気である	
く 午睡時に、子どもたちの体調や眠気の有無が尊重され、安心して寝られる雰囲気である	
け 保育室の中は、適度な温度と明るさで、自然な光や風が取り入れられている	

〈記号〉
◎ …よく取り組んでいる
○ …それなりに取り組んでいる

客観的観点
共通の項目

3.ふり返しシートの視点もふまえて、みなさんの知恵を寄せ合い、交流する



実施している研修の 3 種類

- ・ **園内研修**：まず、自分たちの悩みやどこに困っているかを共有し、そこからテーマを決める（振り返りシートの9つの柱から選ぶ）。次回にテーマに沿って自分の保育のエピソードを写真等で持ち寄り、同僚同士で共有し話し合う。
- ・ **園外研修（公開保育型）**：複数園からの参加者全員でひとつの園の保育を見学し、園の先生方へのインタビュータイムを設けて観察した保育への理解を深める。その後、振り返りシートを使って話し合いを行い、最後に観察園へのフィードバックを作成する。テーマは、あらかじめ観察園へのヒヤリングをふまえて決定。
- ・ **園外研修（事例持ち寄り型）**：複数の園から先生方（主に園長先生・主任の先生）が集まり、テーマに沿った自分（自園）の事例を、写真とエピソードで持ち寄り、参加者同士で話し合う。テーマは、研修主催者との相談で決定。

研修支援のターゲットとして想定される園

園でのふり返りの仕方や課題による分類

1. 保育のふり返し・語り合いの時間確保、方法などに課題がある園
2. 保育のふり返し・語り合いをある程度してるが、方向性の再検討をしたい（再検討が必要と思われる）園
3. 保育のふり返し・語り合いをある程度していて、今の方向性で、さらに（多面的な観点から）質を深めていきたい園

特に1や2にあてはまる園では、意味形成のディスコースだけでは、研修の話し合いが表層的になったり、学びに繋がりにくい場合がある。

「ふり返しシート（仮称）」をうまく活用することで、共通の言語をもち、課題意識や方向性を共有するための仕掛けとできるのでは。

開発の手順

第一段階 「ふり返しシート（仮称）」の目次・項目作成

2016年10月～

1. 既存の保育の質評価スケールの整理

かかわり：CLASS, ASOS, CIS, SSTEWS

環境構成とかかわり：ITERS-R/ECERS-R, ECERS-3, SICS, 安梅先生チームの尺度、
金田先生チームの尺度、秋田先生チーム（縦断科研）の尺度

2. 子どもの発達・育ちの姿の整理 → 目次作成

OECD SS4 (2015), OECD Outcome Survey, Education 2030, Gutman &
Schoon (2013), Schoon (2015), Kautz et al. (2014), 保育所保育指針等を参考に整理・作成

3. 目次に沿って、既存評価スケールの項目を割り振り

4. 既存項目をベースに、日本に共通すると思われる内容を抽出し、表現などを留意し項目作成

既存項目にないものでも、保育所保育指針・解説書等の記述内容をもとに、**項目追加**

保育プロセスの質ふり返しシート（仮称）

《目次》 ※現時点のもの

1.子どもが安心して過ごせる環境構成・かかわり

- 安心感・信頼感
- 自立心・自発性
- 健康（作成中）
- 社会性・協同性
- 多様性

2.子どもが夢中になって遊べる環境構成・かかわり

- 好奇心・探究心
- 数や図形への関心・感覚
- 話し言葉や書き言葉への関心
- 豊かな感性と表現

例）安心感・信頼感を育み支える
環境構成とかかわり

環境構成

- 1.くつろげる雰囲気・場所・もの
- 2.静かな遊びと動きのある遊び
- 3.個別性に配慮した保育計画
- 4.居場所を感じる工夫

かかわり

- 1.温かく肯定的で、感受性豊かなかかわり
- 2.子どもの自己の表出へのかかわり
- 3.個別性を配慮したかかわり
- 4.保育者同士の連携
- 5.保護者との情報共有

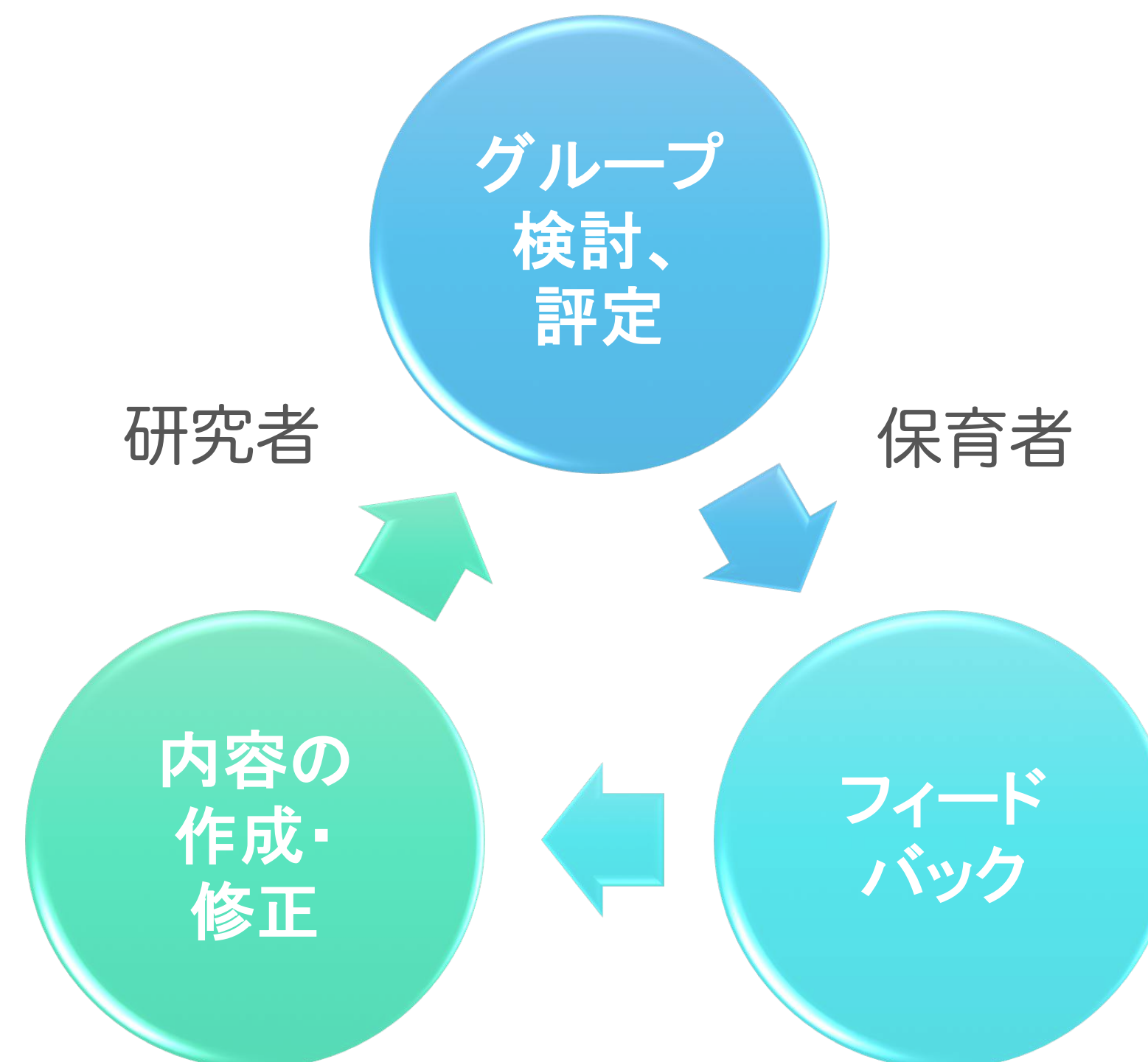
第二段階 「ふり返しシート（仮称）」の妥当性検証

1.日本保育協会青年部（乳児教育・保育委員会、幼児教育・保育委員会）の先生方との協働で、「ふり返しシート（仮称）」を使った研修を開催し（園内研修・公開保育型研修・事例持ち寄り型研修）、**実際に使用して頂き、内容や構成等に関するコメントを収集**

2.コメントを受けて修正

3. 1と2を繰り返す

～実践者参画型の開発～



2017年12月公開保育・研修



2017年7月主任研修会

2017年4月～現在

まとめと今後の展望

保育における実践知へのアプローチとして

- **保育の実践知への焦点化のために**

《主観的・ナラティブによる評価》で実践知を言語化することは重要であり、保育のふり返りの基本。その一段階として、《客観的・共通の項目による評価》である「ふり返りシート（仮称）」の内容をクリティカルに捉え話し合う中で、共通の観点に沿って、自分や相手の保育を焦点化し話し合うことができる。（ふり返りシートはあくまでも話し合いの材料のひとつ）

- **保育の実践知の共有・発展のために**

保育に関する話し合いは、その多様さゆえ、しばしば拡散しがち。「ふり返りシート（仮称）」を活用し話し合いを焦点化するとともに、共通の観点に沿って、一人ひとりの経験や考えの違いを引き出し共有する。さらに、「ふり返りシート（仮称）」に縛られずに「良いところ」「こうしたらもっと良くなりそう」のフィードバックをし合う。

焦点化された話し合いと、そこから発展した（自由度が上がった）話し合いとのプロセスの中で、園としての方向性・今後の見通し・目標を見出していく。

展望

1. 個人のふり返しから同僚同士の語り合いにつなげるために

- ・「ふり返しシート（仮称）」は、質のディスコースから派生したもの。しかし、これを意味形成のプロセスに組み込むことで、ホリスティックなアプローチを補完できないか模索している。意味形成の部分をより充実させるために、さらにどのような工夫・仕掛けが必要か。
- ・語りの多様性（差異）を出し合いやすくするための工夫。

2. それぞれのニーズに応じてカスタマイズして使用できるツールとして

- ・アプリなど、オープンソースとして提供する方法の模索
- ・使用者（園・団体）のニーズに応じて、項目が自動で並べ替えられるなど
 - 保育の全体をまんべんなくふり返るのか、特定の観点や場面を足がかりとしてふり返しをするのか
（それぞれの課題意識に応じて使えるように）
 - 基本的なことから確認したいのか、より豊かな質をめざしたいのか
（園の成熟度に応じて使えるように）
- ・自分たちのオリジナルの視点・項目を作れる仕様

研究プロジェクトのメンバー及び協力者

- ・ **作成及び開発全般（本スライド作成）**

淀川裕美（Cedep）

佐川早季子（奈良教育大学・Cedep協力研究者）

- ・ **妥当性検証**

淀川裕美・佐川早季子

日本保育協会青年部（乳児教育保育委員会、幼児教育保育委員会）の先生方

日本保育協会石川県支部の先生方

- ・ **パッケージとしての開発に関する専門的指導助言**

JSPS科研費 課題番号 16H02063 「保育者の学習過程を支える園内研修とリーダーシップの検討」（代表 秋田喜代美 東京大学）の研究メンバーの先生方

- ・ **研修実施**

公開保育型研修： 淀川裕美・佐川早季子・日本保育協会青年部の先生方

事例持ち寄り型研修： 淀川裕美・佐川早季子・日本保育協会青年部の先生方

園内研修： 淀川裕美・野澤祥子（Cedep）

千代田区子育て推進課・私立保育所（一部）の先生方

開発のための研修実績

園内研修（3回）：2017年度6園

2018年度7園

公開保育型研修：2017年度2回

2018年度1回（現在）

事例持寄型研修：2018年度1回（現在）

妥当性検証のみ：2017年度7回

ご静聴ありがとうございました

